

2001年度「機械工学振興事業資金助成」事業実施報告

本会では、会員の寄付金と本会拠出資金により「機械工学振興事業資金」を設け、青少年への機械工学の普及およびアジア諸国等の関係団体との連携促進を目的とする事業の育成を図っております。2001年度には7件の事業に対して助成をいたしましたので、ここにその報告をいたします。

なお、本資金に寄付をしていただきました会員の方々のご芳名は、日本機械学会誌2001年8月号に掲載しておりますので、あわせてご覧下さい。

第1回「流れの夢コンテスト」

実行委員長 平原裕行（埼玉大学）

流体工学部門では、若手研究者を対象にした企画として、掲記コンテストを開催することになった。アイデアを競うものになるが、あくまでも「夢」を感じさせてくれる作品を期待しての企画である。第1回目のテーマは「生物と流れ」であった。コンテストを開催するにあたって、若手研究者に専門知識を提供するために、特別講演会を積極的に行うこととし、第1回目は2001年6月16日に慶應大学にて、加藤直三先生（東海大学）をお招きして、第2回目は10月2日に蔵王にて清野聰子先生（東京大学）をお招きして開催した。第2回目の特別講演会では同時に応募作品の中から事前審査により選ばれた7名を招待し、コンテストを開催した。コンテスト当日は、多くの方のご参加をいただき、実際に生き生きとした雰囲気の中で、発表が行われた。作品はどれも創造性にあふれ、発表者の説明にも熱意がこもっていた。紙面の都合上発表作品名と発表者名のみを記させていただく。清水絵里子さん（九州大学）の「二次元羽ばたき翼の高効率推進に関する研究」、梅田真三郎先生（福山大学）の「渦と噴流を利用した新しい魚の養殖水槽」、田中宏幸さん（九州工業大学）の「蝸牛からの考察」、松沢礼文さん（名古屋大学）の「魚の向流性に学ぶ船舶の航行性能の向上に対する提案」、伊藤有沙さん（東北大学）の「絶対音感に関する研究」、西村弘紀さん（埼玉大学）の「THE みずすますい～ん」、長谷川一成さん（神奈川工科大学）の「水上歩行は

できないか」、以上7作品が当日、発表された。結果的に最も夢を熱く語ってくれたという意味で西村さんに最優秀賞の栄冠が輝いた気がする。

本コンテストは、基本的にネット上で開催している点にも特徴がある。コンテストのエントリーは、ネット上で行うことによって全国的な参加が可能となり、さまざまな人がその評価を行い、さまざまな形式が可能となる。最終的には、プレゼンターとして一箇所に集まり、熱い気持ちをその場で語ってもらうわけである。今後もいろいろな形での開催を模索し、工夫されてこのような企画が発展していくことを願っている。

最後に、本コンテストをサポートしていただいた企業、学生幹事、実行委員、相談員の方々に厚く感謝申し上げます。コンテストの経過、結果に関しては <http://fourier.mech.saitama-u.ac.jp> をご覧下さい。

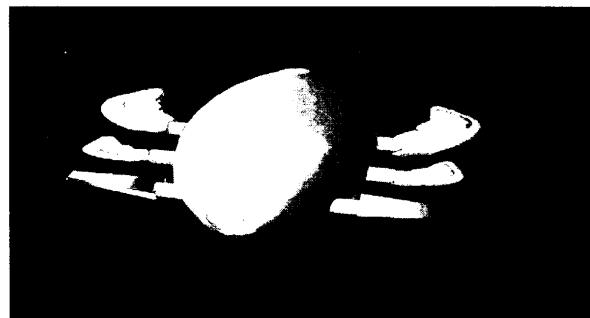


図 The みずすますい～ん

第5回ロボットグランプリ

実行委員長 広瀬茂男（東京工業大学）

機械工学振興事業資金の支援を受けて2001年に第5回ロボットグランプリを開催した。ロボフェスタ本大会として第5回ロボットグランプリは、開催日および会場を分けて開催したのでその概要について報告する。

●ロボットスカベンジャー競技 (B競技会) ●

開催日：2001年8月30日

会 場：横須賀市久里浜南体育館

B競技として神奈川県横須賀市久里浜南体育館において、ロボットスカベンジャーはロボフェスタ参加型競技と一緒に開催した。今回は一般の人も気軽に参加できるよう大会数週間前に

車両キットを参加希望者にわたし、車両キットの組立とそれに搭載する自由な発想の操作機器を家にあるボール紙やセロテープなど使って作ってもらい大会に挑んでもらった。

前回に比べ競技参加者は予想をはるかに越えた2倍以上の申し込みがあり、当初の予定で進めていた競技会場を急遽変更することになった。

○競技内容はフィールドにおかれたピンポン球を集めてゴールエリア（塵芥積置所）に運び、制限時間内にどれだけピンポン球をかき集める作業を早く正確に行う競技。

(申込チーム102, 予選参加チーム89, 決勝チーム25)

●ロボットランサー、大道芸、からくりロボット競技(A競技会) ●

開催日：2001年11月17日、18日

会 場：横浜国際平和会議場（横浜パシフィコ）

A競技としてこれらの競技は前回の規定を一部変更したものもある。競技参加者は前回同様高専、大学の学生が多いな